様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月２４日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５２００８０
研究課題名（和文）　18～19 世紀東アジアの自他認識の変容と翻訳語ネットワークの研究
研究課題名（英文）　Studies in the Transformation of 18th and 19th Century East Asian Self/Other Recognition and Word Translation Networks.

研究代表者
桂島　宣弘（KATSURAJIMA　NOBUHIRO）
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：１０１６１０９３

研究成果の概要（和文）：本研究は、19 世紀後半を中心とした学術用語（日本漢語）＝翻訳語の生成と自他認識の変容、ナショナリズムの形成の問題、朝鮮総督府による『朝鮮史』編纂の問題などについて、思想史的に明らかにしようとするものである。植民地支配をも射程に入れて日韓思想史を 18 世紀に遡って検討できたこと、またそのための共同研究ネットワークが確立されたことが本研究の最大の成果であった。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on academic jargon of latter half of the nineteenth century to explore the notion that Chinese loan words in Japan represented the foundations of the translated word as well as the transformative recognition of the self/other. It further investigates issues related to the structure of nationalism and compilation of ‘Korean History.’ The study resulted in the creation of joint research networks that now cover the history of colonialism in Japanese-Korean thought since the eighteenth century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：日本思想史
科研費の分科・細目：人文学・哲学・思想史
キーワード:『朝鮮史』編修会　思想史　日中韓学術交流　日本史　日本漢語　自他認識　近代学術知

１．研究開始当初の背景

2005 年度まで、研究代表者は科学研究費補助金を得て、17～19 世紀の東アジア思想空間における自他認識の研究に従事してきた。それらの成果は、研究成果報告書や拙著『増補改訂版　幕末民衆思想の研究』（文理閣、2005 年）、拙稿「国学へのまなざしと伝統の創造」（『歴史評論』659 号、2005 年）、「19 世紀における日韓思想史の一考察」（『南冥学研究』19 輯、2005 年、大韓民国）、「東アジアの近代と『翻訳』」（『人文研究（嶺南大学校）』51 号、2006 年、大韓民国）などとして公刊・公表してきた。ことに 2006 年～07 年には約 13 ヶ月、大韓民国（以下韓国）に滞在し、史料収集に努めるとともに東西大学校・ソウル大学校・全北大学校・啓明大学校・韓国学中央研究院などの研究者と意見交換を行い、17～19 世紀日韓思想空間の知識人の自他認識の共時的構造についてはかなりの程度明らかにすることができた。すなわち、儒学的思惟を基礎としつつも、その解体様式の共通性と相違が、やがて日韓の自他認識の相違やナシ

ョナリズムの相違に帰着する過程について実証的に明らかにすることができた。だが、この研究を通じて、近代学術知の展開と東アジアのネットワークの問題、近代歴史学の確立・普及に伴う翻訳の問題などが、18～19 世紀の東アジアの自他認識の考察にとって重要な問題群を構成していることが明らかとなった。ことにナショナリズムの生成に密接に関わる近代学術における叙述様式、学術用語（日本漢語）の創造とその普及は、18～19 世紀における自他認識の変容にとって決定的な役割を果たしていると考えられる。

２．研究の目的

本研究は、上記の背景の上に、この間の日韓思想史研究で得られた知見を基礎に、19 世紀後半を中心とした学術用語（日本漢語）＝翻訳語の生成と自他認識の変容、ナショナリズムの形成の問題、朝鮮総督府による『朝鮮史』編纂の問題などについて、思想史的に明らかにしようとするものである。

３．研究の方法

研究方法としては、韓国の研究者と緊密な連絡を取りつつ、日本・韓国における 18～20 世紀の儒学・洋学（実学）・近代歴史学に関わる文献を収集・分析し、同時に日本人研究者、在日韓国人研究者、韓国側研究者（ソウル大学校・高麗大学校・全北大学校や韓国学中央研究院のメンバー）と近代歴史学及び『朝鮮史』編纂に関わる共同研究会を開催し、当該テーマの分析・研究の深化をはかってきた。これと並行して立命館大学を中心に、1996 年度から活動してきた華夷思想研究会を発展的に改組した東アジア思想文化研究会を定期的に開催し、18～19 世紀の日韓の思想史に関する文献、諸史料を収集し、共時的展開を中心とした分析、意見交換を行ってきた。また、2009 年 9 月に、大韓民国全北大学校に交換教授として滞在し、この間に史料収集を集中的に行い、かつ高麗大学校、韓国日本学連合会大会などで研究会・学会に参加・講演・発表することができた。

４．研究成果

(1)『朝鮮半島史』目次（一部のみ、詳細は下記拙稿「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」に掲載。日本では初めての紹介となる）。

第一編上古　概説第一期　原始時代　概説　第一章　朝鮮開闢の諸伝説（第一節　箕氏開国伝記　第二節　檀君伝説　第三節　韓民族固有の開国伝説）　第二章　古朝鮮（第一節　半島の原始住民　第二節　半島の諸小国　第三節　衛氏朝鮮）第二期　漢領土時代　第一章　漢の郡県設置（第一節　四郡の建置と其の疆域　第二節　漢昭帝の改革　第三節　楽浪の隆盛　第四節　帯方郡の新設　第五節　楽浪帯方の衰滅）　第二章　半島に於ける漢人の文化及社会状態（第一節　楽浪帯方の文化　第二節　楽浪帯方の社会状態）　第三章　韓種族の諸国（第一節　馬韓　第二節　辰韓弁韓　第三節　日本と三韓との関係　第四節　濊）　第四章　扶余民族の南下（第一節　扶余民族　第二節　高句麗の建国　第三節　高句麗の隆盛及南進　　第四節　百済の由来）　第五章　百済新羅の興起（第一節　新羅の由来及其興起　第二節　百済新羅の興起に対する韓諸国の状態並に加羅諸国の起源　第三節　日本と新羅及加羅諸国との交通　第四節　神功皇后の加羅諸国保護）

(2)東アジア思想文化研究会の概要

【2008 年度】

5 月 9 日　桂島「本研究の趣旨説明」金泰勲氏（立命館大学博士後期課程）「近年における韓国における天理教研究の動向」裵貴得氏（立命館大学博士後期課程）「在日朝鮮留学生のスポーツ活動」／5 月 30 日　肖琨氏（立命館大学博士後期課程）「近世善書の天・神観念と日本における流通」／6 月 27 日　金政槿氏（立命館大学博士後期課程）「本居宣長の他者認識」沈燦燦氏（立命館大学博士前期課程）「修士論文構想」／7 月 11 日　諸点淑氏（立命館大学博士後期課程）「東アジア植民地における日本宗教の『近代』」／7 月 27 日　金泰勲氏(前掲)「戦前天理教の台湾布教」10 月 24 日　沈熙燦氏（前掲）「『朝鮮史』編纂の過程について」桂島「『朝鮮史』編纂に関わる諸問題と研究課題」長志珠絵氏（神戸市外国語大学）「『朝鮮史』編纂に関わる諸問題と研究課題」／10 月 31 日　肖琨氏（前掲）「『鎖国』下の漢籍輸入――唐船持渡書と善書をめぐって」／11 月 28 日　金政槿氏（前掲）「1920－30 年代の日朝の知識空間と朝鮮学」沈燦燦氏（前掲）「植民地朝鮮における『近代歴史学』の成立をめぐって」／12 月 5 日　庵逧由香氏（立命館大学）「朝鮮総督府の『総動員体制』形成政策とその構造」／12 月 12 日　裵貴得氏（前掲）「植民地朝鮮における体育・スポーツに関する資料目録」Uliana Shipitiko 氏（立命館大学博士前期課程）「初期のロシア論と蝦夷地開発論」／12 月 19 日　佐々充昭氏（立命館大学）「朝鮮近代における国教創設運動と日鮮同祖論」／1 月 16 日　全成坤氏（韓国高麗大学校）「植民地『朝鮮』という空間における『朝鮮史』と崔南善」

【2009 年度】

5 月 8 日　黎宇華氏（立命館大学博士前期課程）「近世日本における士道の形成」石橋氏（立命館大学客員研究員）「ジェンダーフリー・バックラッシュ」／5 月 23 日　金仙熙氏

（韓国高麗大学校）「韓国国定国史教科書にみる日韓関係の記述」／6 月 12 日　金政槿氏（前掲）「韓国思想史学の方法と課題」沈熙燦氏（立命館大学博士後期課程）「『朝鮮史』編纂事業と植民地朝鮮における儒学者」／6 月 26 日　Andres Perez Riobo 氏（立命館大学博士後期課程）「布教における日本人と布教の日本化」向卿氏（中国湖南師範大学）「近世日本人のアイデンティティの研究」／7 月 10 日　Uliana Shipitiko 氏（立命館大学博士後期課程）「帝国論からみたロシア史研究」裵貴得氏（前掲）「日本組合教会の朝鮮伝道」／7 月 17 日　『季刊日本思想史』76 号に向けた各自の論文構想発表会／7 月 25 日　高吉嬉氏（山形大学）「旗田巍と朝鮮史研究―＜在朝日本人二世＞のアイデンティティと日朝友好」／10 月 9 日　河宇鳳氏（韓国全北大学校）「19 世紀朝鮮とヨーロッパの交流」／11 月 6 日　桂島　沈熙燦氏（前掲）「日本思想史学会のパネルセッションの報告、夏季史料調査報告」／11 月 13 日　沈熙燦氏（前掲）「植民地朝鮮における〈近代歴史学〉の成立をめぐって」／11 月 20 日　三ツ井崇氏（同志社大学）「植民地期朝鮮におけるハングル運動研究の現状と課題」／12 月 4 日　石橋氏（前掲）「地方自治体のジェンダー行政とバックラッシュの流れ」／12 月 18 日　肖琨氏（前掲）「『自治録』の日本的展開とその周辺」／1 月 16 日　柳美那氏（韓国国民大学校）「植民地時代朝鮮の儒教について」／1 月 22 日　Uliana Shipitiko 氏（前掲）「ウラル山脈の東の『ロシア』とその限界」Andres Perez Riobo 氏（前掲）「日本におけるキリスト教徒の出会い」『季刊日本思想史』76 号に向けた各自の論文構想発表会／1 月 29 日　金泰勲氏（前掲）「韓国統監府の外国人宣教師監視」宋炯穆氏（立命館大学博士前期課程）「1910 年代から 1920 年代における植民地朝鮮の宗教地形」／1 月 30 日　木村直也氏（産業能率大学）「幕末・維新期の朝鮮進出論」

【2010 年度】

4 月 23 日　金哲培氏（立命館大学客員研究員）「慶基殿『太祖御真奉安』の歴史的考察」樊敏麗氏（立命館大学博士前期課程）「高山樗牛の思想変遷に対する考察」／5 月 14 日　肖琨氏（前掲）「勧善倫理の構築と近世日本仏教」仇玉卿氏（立命館大学博士前期課程）「中国学界における日本研究の中の『近代化論』」／5 月 21 日　金泰勲氏（前掲）「天理教の三教会同」Andres Perez Riobo 氏（前掲）「殉教したくないキリシタン」／6 月 4 日　裵貴得氏（立命館大学研究生）「日本キリスト教の朝鮮伝道」／6 月 11 日　金政槿氏（前掲）「韓国における最近の『実学』研究動向」沈熙燦氏（前掲）「歴史学の傲慢とフェティシズム」／7 月 9 日　殷暁星氏（立命館大学博士前期課程）「宣長の老荘思想批判について」宋炯穆氏（前掲）「植民地朝鮮における朝鮮新宗教の規制の論理とその背景」／　7 月 16 日　許智香氏（立命館大学博士前期課程）「朝鮮総督府の通訳管制をめぐって」方阿離氏（立命館大学博士後期課程）「徽州商人と『徽州学』について」／7 月 24 日　石橋氏（前掲）「『ジェンダー・バックラッシュ』の視点からみる女性政策」／11 月 5 日　申載弘氏（韓国暻園大学校）「郷歌研究の意義と展望 」／11 月 15 日　張維薇氏（立命館大学客員研究員）「晩年親鸞の思想的特徴について」殷暁星氏（前掲）「近世日本における「六論」の運用」／11 月 19 日　河内優枝氏（韓国東西大学校修士課程）「日本の人間関係におけるスラング「KY」の使用について」李泳秀氏（韓国東西大学校博士課程）「韓国地方自治体外交の展望」／11 月 22 日　沈熙燦氏（前掲）「崔南善における普通の欲望と破綻」モリ・カイネイ氏（立命館大学一貫制博士課程）「中国人／華人とプロテスタント宣教」／11 月 29 日　立命館大学・全北大学校第二回国際学術研究会　朴正珉氏（韓国全北大学校博士課程）「朝鮮世祖初期における女真人懐柔」Andres Perez Riobo 氏（前掲）「一六・一七世紀におけるキリシタン殉教者の動機とその経緯」柳采延氏（韓国全北大学校博士課程）「朝鮮後期における通信使行の三使選抜」肖琨氏（前掲）「近世の民衆生活における『善書』」羅ハナ氏（韓国全北大学校博士課程）「『三国志』沃沮記録を通してみた高句麗地方統治方式」金津日出美氏（韓国高麗大学校）「呼びかける《朝鮮》からの声」／12 月 3 日　仇玉卿氏（前掲）「西川如見における自他認識の一考察」／12 月 10 日　樊敏麗氏（前掲）「一九世紀後半期日本知識人の中国観」／12 月 17 日　裵貴得氏（前掲）「日本組合教会の朝鮮伝道における一考察」方阿離氏（前掲）「李宗棠の初回対日教育視察をめぐって」／1 月 14 日　肖琨氏（前掲）「明末清初の善書運動について」許智香氏（前掲）「近代日本における『形而上学』の形成過程」／1 月 21 日　石橋氏（前掲）「ジェンダー・バックラッシュ問題の視点からみる女性政策」Andres Perez Riobo 氏（前掲）「一六三二年における非人の国外追放について」宋炯穆氏（前掲）「普天教の教義とその成長要因について」／1 月 27 日　崔官氏（韓国高麗大学校）「日本における壬辰倭乱（文禄の役）」

（３）2008 年の夏季に二度、2009 年の春季・夏季に三度、2010 年春季に二度、韓国国史編纂委員会図書館、高麗大学校図書館、慶尚大学校図書館などでの史料調査を有志で実施し、相当量の『朝鮮半島史』『朝鮮史』関連の史料を蒐集した。一部は、下記『季刊　日本思想史』76 号に所載。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）
①桂島宣弘「トランスナショナル・ヒストリーという視座」『新しい歴史学のために』277号、査読有、2010年10月、3-16p。
②桂島宣弘「植民地朝鮮における歴史編纂と近代学術知」『日語日文学』第47輯、大韓民国、査読有、2010年８月、21-33p。
③桂島宣弘「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」『季刊　日本思想史』76号（責任編集）、査読無、2010年６月、105-122p。
④桂島宣弘「日本近代天皇制と「民衆」」『人間と文化研究』第15号、大韓民国、査読無、2009年12月、127-145p。
⑤桂島宣弘「アジアの日本研究――韓国・中国を中心に」『日文研』43号、査読無、2009年９月、29-36p。
⑥桂島宣弘「姜沆と藤原惺窩」『全北史学』34号、大韓民国、査読有、2009年４月、255-273p。
⑦桂島宣弘「国家神道論という言説」『新しい歴史学のために』269号、査読有、2008年10月、1-13p。
⑧桂島宣弘「東アジア人文学の可能性を求めて」『アリーナ』5号、査読無、2008年３月、398-403p。

〔学会発表〕（計７件）
①桂島宣弘「トランスナショナル・ヒストリーの可能性」北海道高等学校日本史教育研究会第34回大会基調講演、2010年８月５日、北海道大学。
②桂島宣弘「植民地朝鮮における歴史書編纂と近代歴史学」韓国日本学連合会第８回国際学術大会、2010年７月２日、韓国南ソウル大学校。
③桂島宣弘「如来教関係史料と幕末民衆思想」「宗教と社会」学会大会、2010年６月５日、立命館大学。（神田秀雄・浅野美和子・林淳・安丸良夫と共同セッション報告）。
④桂島宣弘「19世紀日本における民衆宗教の歴史的意義」仙＆道教国際学会、2009年10月24日、韓国高麗大学校。
⑤桂島宣弘「植民地朝鮮における他者表象」日本思想史学会大会、2009年10月17日、東北大学。（長志珠絵・高吉嬉・金津日出美・沈熙燦と共同パネル報告）。
⑥桂島宣弘「現代日本のナショナリズムと教科書問題」全北大学校特別講演会、2009年９月８日、韓国全北大学校。
⑦桂島宣弘「１８－１９世紀の日韓相互認識の転回」高麗大学校日本研究センター研究会、2009年６月19日、韓国高麗大学校。

〔図書〕（計２件）
①桂島宣弘『東アジア自他認識の思想史（韓国語）』論衡（ソウル）、2009年６月、全248P。ISBN　978-89-6357-400-1　94910
②桂島宣弘『自他認識の思想史』有志舎、2008年11月、全198P。ISBN 978-4-903426-17-4

〔その他〕
ホームページ等
http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~katsura/

６．研究組織
(1)研究代表者
桂島　宣弘（KATSURAJIMA　NOBUHIRO）
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：10161093